

中期目標の達成状況に関する評価結果

申立ての内容	申立てへの対応
<p>【評価項目】 I 教育に関する目標 3 優れた点、改善を要する点、特色ある点 (改善を要する点)</p> <p>【原文】 中期計画「各研究科において高度な専門的知識・技術を持った職業人養成を推進するとともに、専門職大学院創設の可能性を検討する」について、専門職大学院創設の検討と、他の計画から多くの研究科で改組が行われていることは認められる。しかし、高度な専門的知識・技術を持った職業人養成の推進に対応する具体的な取組としては、一部の研究科の記載にとどまっており、本計画の進捗状況が十分には確認できないことから、改善することが望まれる。</p> <p>【申立内容】 【修正文案】の通り修正願いたい。</p> <p>【修正文案】 ……職業人養成の推進に対応する具体的な取組としては、一部の研究科の記載にとどまっており、本計画の進捗状況が十分には確認できないことから、十分に確認できるよう報告書の記述の仕方を改善することが望まれる。</p> <p>【理由】 改善する内容が明確でなければ、今後の改善活動に活かさないことから修正願いたい。</p>	<p>【対応】 原案のとおりとする。</p> <p>【理由】 今回、(改善を要する点)として指摘していることは、「各研究科において……推進する……」という計画に対して、当該計画に対応する具体的な取組が、一部の研究科の記載にとどまっており、本計画の進捗状況を判定するための根拠が不十分である点を指摘しており、原文において、その指摘内容は明確になっていると判断したため。</p>

中期目標の達成状況に関する評価結果

申立ての内容	申立てへの対応
<p>【評価項目】 I 教育に関する目標 3 優れた点、改善を要する点、特色ある点 (改善を要する点)</p> <p>【原文】 「中期計画「多角的な評価方法を採用入れて、シラバスに授業の達成目標と評価基準を明記するとともに、GPA制度（授業ごとの成績を5段階で評価し、単位当たりの平均を出して学生を評価する方法）の導入の可能性や成績評価方法の検討を進める」について、各学部・研究科ともに学問分野や授業形態に応じた多角的な評価方法を取り入れているものの、グレード・ポイント・アベラージ（GPA）制度については、教務委員会において検討している段階にとどまっており、導入しているとはいえないことから、改善することが望まれる。」</p> <p>【申立内容】 削除願いたい。</p> <p>【理由】 当該中期計画では、GPA制度について「その導入の可能性の検討を進める」ことを計画としており、報告書に記載及び訪問調査時に回答したとおり、全学の教務委員会において、統一的な成績評価基準の策定や、海外を含む他の大学の状況を踏まえ、GPA導入の可能性について検討を進めている。 以上のことから、本中期計画でいう「その導入の検討を進める」については、十分な取組を行っており、また、GPA導入を前提とする評価者の主観的判断に基づく評価は、中期計画の達成度を評価するという本</p>	<p>【対応】 意見のとおりとする。</p> <p>【理由】 GPA 制度は導入していないものの、その制度を導入するための取組が積極的に行われているため。</p> <p>当該（改善を要する点）の削除に基づき、「(3)教育内容等に関する目標」の判断理由を以下のとおり修正する。</p> <p>「「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（10項目）の<u>すべて</u>が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。」</p>

評価全体の趣旨にも反することから、当該指摘事項は削除願いたい。	
---------------------------------	--

中期目標の達成状況に関する評価結果

申立ての内容	申立てへの対応
<p>【評価項目】 II 研究に関する目標 3 優れた点、改善を要する点、特色ある点 (特色ある点)</p> <p>【原文】 「・・・神戸バイオテクノロジー研究・人材育成センター及びインキュベーションセンターにおいて、関連分野のベンチャー企業の創出等に努め、バイオビジネスコンペJAPAN で最優秀事業に選出された「熱応答性磁性ナノ粒子の開発とその実用化」の共同研究を行った企業と合同でベンチャーを立ち上げ・・・」</p> <p>【申立内容】 【修正文案】の通り修正願いたい。</p> <p>【修正文案】 「・・・神戸バイオテクノロジー研究・人材育成センター及びインキュベーションセンターにおいて、関連分野のベンチャー企業の創出等に努めている。また、バイオビジネスコンペJAPANで最優秀事業に選出された「熱応答性磁性ナノ粒子の開発とその実用化」の共同研究を行った企業と合同でベンチャーを立ち上げ・・・」</p> <p>【理由】 インキュベーションセンターにおけるベンチャー創出と後段の企業との合同ベンチャーは繋がりががないため、そのことが明確になるよう修正願いたい。</p>	<p>【対応】 意見のとおりとする。</p>

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等番号・名称： 11 海事科学部・海事科学研究科

申立ての内容	申立てへの対応
<p>【評価項目】 I 研究水準 1. 研究活動の状況 【判断理由】</p> <p>【原文】 「・・・教員一名当たり0.32件で967万円となっている・・・」</p> <p>【申立内容】 【修正文案】の通り変更願いたい</p> <p>【修正文案】 「・・・教員一名当たり0.34件で9,515万円となっている・・・」</p> <p>【理由】 現況調査表11-5頁、資料6の科学研究費補助金の平成19年度獲得件数が27件であり、現況調査表11-4頁、資料3の平成19年の教員数が80名である。獲得件数を教員数で割ると、教員一名当たり0.34件となり、学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（案）11-2 0.32件と異なる。 また、現況調査表11-5頁、資料6の科学研究費補助金の平成19年度獲得金額が95,150千円であり、学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（案）11-2 967万円と異なる。 よって、修正文案の通り修正願いたい。</p>	<p>【対応】 意見のとおりとする。</p>